

## 職業実践専門課程の基本情報について

平成28年10月1日現在

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
国際医療福祉専門学校 七尾校		平成19年3月27日	宇野 弘之		〒926-0816 石川県七尾市藤橋町西部1番地 (電話) 0767-54-0177	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 阿弥陀寺教育学園		昭和61年3月17日	宇野 弘之		〒290-0011 千葉県市原市能満字崩山1554-4 (電話) 043-208-1600	
目 的	「尊厳を支えるケアの実践」を教育課程の基本におき、生活支援の専門家に求められる技術と誇りを身に付けます。理学療法士、作業療法士、救急救命士の3つの医療職の育成も行う本校の特色を生かし、他学科の学生と共に学ぶことでリハビリテーションチームの一員としての介護・福祉を学び、能登地区をはじめ、地域社会に貢献できる介護福祉士を育てます。					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育 ・社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	2年 (昼)	1875時間 (93単位)	平成25年文部科学省 告示第2号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1095時間 (72単位)	330時間 (11単位)	0時間 (0単位)	450時間 (10単位)	0単位時間 (0単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		13人	2人	26人	28人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2(実習においては5分の4)に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。	
長期休み	■学年始め：4月4日 ■夏 季：8月13日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月3日 ■学 年 末：3月4日～4月3日			卒業・進級条件	全科目単位認定(93単位、1875時間)を受け、かつ校長が卒業を認めたもの。	

生徒指導	<b>■クラス担任制</b> (有・無) <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> 定期的に面談を実施し、長期欠席時においても学生の状況等の把握に努め、学生の課題の解決への支援を行っていく。	課外活動	<b>■課外活動の種類</b> 介護・福祉施設・機関におけるボランティア活動 <b>■サークル活動</b> (有・無)
主な就職先	<b>■主な就職先、業界</b> 介護・福祉事業所 (施設・機関等) <b>■就職率<sup>*1</sup></b> 100 % <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>*2</sup></b> 100 % <b>■その他</b> 就職以外は進学 (平成 27 年度卒業生に関する平成 28 年 4 月時点での情報)	主な資格・検定	介護福祉士国家資格 (国家試験受験免除)  福祉住環境コーディネーター
中途退学の現状	<b>■中途退学者</b> 2名 <b>■中退率</b> 13% 平成27年4月 1日在学者15名 (平成27年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者13名 (平成28年3月31日卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 介護以外の他の進路に進むため。 <b>■中退防止のための取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後早期の合同合宿などの行事による学生間交流の促進を図る</li> <li>・年3回(4月、9月、12月)の定期的な学生個人面談の実施による密な学生把握</li> <li>・学習課題をもつ学生に対する個別面接と助言・指導の実施 (随時)</li> <li>・2年生を対象とした進路相談面接の実施 (随時)</li> </ul>		
ホームページ	URL: <a href="http://kifs-nanao.ac.jp/">http://kifs-nanao.ac.jp/</a>		

\* 1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職 (内定) 状況調査」の定義による。

① 「就職率」については、就職希望者に占める就業者の割合をいい、調査時点における就職希望者数で除したものとす。

② 「就職率」における「就職者数」とは、正規の職員 (1年以上の非正規の職員として就職した者を含む) として最終的に就職した者 (企業等から採用通知などが出された者) をいう。

③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

\* 「就職 (内定) 状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、史学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

\* 2 「学校基本調査」定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者としな (就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

高齢社会を迎えたわが国にとって、福祉・介護分野を担う人材養成は極めて重要な課題である。そこで本校は、介護実習をとおりして福祉施設と連携を図り、実学としての介護福祉を教育課程編成に反映させている。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 10 月 1 日現在

名 前	所 属
三和 勘太	国際医療福祉専門学校七尾校 (副校長)
藤田 賢二	国際医療福祉専門学校七尾校 (介護学科長)
寺井 紀裕	国際医療福祉専門学校七尾校・教務委員
道下美奈子	社会福祉法人石川県社会福祉事業団七見デイサービスセンター (センター長兼主任介護職員)、石川県介護福祉士会理事
岩本 潤一	介護老人保健施設 千寿苑 事務長

### (開催日時)

第1回 平成 28 年 7 月 29 日 16:10~17:10 実施

第2回 平成 29 年 2 月 17 日 16:10~17:10 実施予定

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

福祉施設で実習指導者や職員の助言・指導を受けながら学生一人ひとりが専門知識・技術、専門職の行動規範や職業倫理を体験的に学び、支援を必要とする人たちの立場にたって考え、行動する力を修得する。また、演習科目では、講義で学んだ形式知と実習で学ぶ経験知を結びつける教育をおこなう。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎実習Ⅰ	介護福祉士の役割を見学・体験を通して包括的に学習する。	デイサービスセンターせんじゅ、眉丈園デイサービスセンター、デイサービスセンターおうちの里、デイサービスセンターエレガントなぎの浦、デイサービスセンターあつとほーむイースト、他
基礎実習Ⅱ	講義・演習・学内実周で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的関わりを深め、利用者のニーズに関する理解力、判断力を養う。	秀楽苑グループホーム、グループほーむ 楓の家、グループホーム やくしの里、グループホーム 鹿寿苑、グループホームあじさい、他
総合実習Ⅰ	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」、特別養護老人ホーム「鹿寿苑」、特別養護老人ホーム「こすもす」、特別養護老人ホーム「つまま園」、特別養護老人ホーム「眉丈園」、他
総合実習Ⅱ	個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学習する。	特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」、特別養護老人ホーム「鹿寿苑」、特別養護老人ホーム「こすもす」、特別養護老人ホーム「つまま園」、特別養護老人ホーム「眉丈園」、他

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

本校の職員研修規程は、国際医療福祉専門学校七尾校就業規則第86条の規定に基づき、職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な職員の能力、資質等を向上させることを目的とする。また、研修の効果を高めるために計画的な研修実施及び研修報告をおこない、職員全体の自己啓発の意欲の向上を図る。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年10月1日現在

名 前	所 属
中川忠司	七尾市役所 健康福祉部福祉課 次長
奥井敦士	社会福祉法人七尾市社会福祉協議会
椿原達也	医療法人社団持木会 柳田温泉病院 (理学卒業生、同窓会長)
伊藤邦夫	理学保護者、後援会長
橋向正人	公立能登総合病院 (理学卒業生)
加藤孝之	富来病院 (作業卒業生、同窓会副会長)
大松大洋	各務原市消防 (救命卒業生)
法葉未来	公立つるぎ病院 (介護卒業生)

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.kifs-nanao.ac.jp/>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL:<http://www.kifs-nanao.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成26年度 新カリキュラムのみ掲載										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			介護倫理	人間の尊厳と自立、介護にける尊厳の保持・自立支援について学習する。	1前	30	2	○		
○			人間関係論	介護人としての倫理を理解し、より良い人間関係を築くための知識を学習する。	1前	15	1	○		
○			コミュニケーション技術概論	人間関係の形成、コミュニケーションの基礎作りを学習する。	1前	15	1	○		
○			保健医療福祉概論	わが国の社会保障制度や社会福祉制度において次ぎの項目を中心に学習する。 ①生活と福祉、②社会保障制度、③介護保険制度、④障害者自立支援制度、⑤介護実践に関連する諸制度について学習する。	1前	30	2	○		
○			生活と福祉	生活の構造、家族、地域社会と個人、人と社会、組織、ライフスタイルの変化、生活支援と福祉の体系について学習する。	2前	15	1	○		
○			社会保障制度論	基本的社会保障の考え方、社会保障制度の発達、仕組み、現代社会と社会保障制度について学習する。	2後	15	1	○		
	○		運動科学	人間にとって運動の必要性和からだへの働きかけての能力について学習する。	1前	30	2	○		
	○		ボランティア論	ボランティア活動に参加する場合とそれを受け入れる場合の双方の立場から、必要な教育や組織運営のあり方などを学習する。	1前	15	1	○		
	○		リハビリテーション概論	介護におけるチームケアなどにおいて次の項目を中心に学習する。 ①自立にむけた介護②介護のはたらきと基本的視点③リハビリテーションと介護	2前	15	1	○		
	○		情報科学	基本的なパソコンの設定方法、アプリケーションの使い方、インターネットの使い方を学習する	1前	30	2	○		
	○		福祉住環境論	安全で快適な住環境を実現するためのコンセプトを学習する。また、建物や備品などハードに対する環境づくりだけでなく、人との関わりによるソフトの環境づくりを考察して学習する。	1後	30	2	○		

○		介護の基本Ⅰ	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支える仕組み、尊厳を支える介護、自立に向けた介護における知識と技術について学習する。	1 前	60	4	○		
○		介護の基本Ⅱ	介護を必要とする人の理解、介護の必要性、生活支援、専門性、介護サービスにおける連携を学習する。	1 後	60	4	○		
○		介護の基本Ⅲ	介護サービスとは何かを考え、介護における安全の確保とリスクマネジメント、連携例の理解、感染症対策の実際、こころとからだの健康管理について学習する。	2 後	60	4	○		
○		コミュニケーション技術論Ⅰ	人間関係の形成、コミュニケーションの基礎について学習する。	1 前	30	1		○	
○		コミュニケーション技術論Ⅱ	コミュニケーションの実際、技術等について学習する。	1 後	30	1		○	
○		生活支援技術論Ⅰ	生活支援、自立に向けた居住環境の整備について学習する。	1 前	30	2	○		
○		生活支援技術論Ⅰ演習	生活支援、福祉用具、自立に向けた居住環境の整備について事例を通して学習する。	1 前	30	1		○	
○		生活支援技術論Ⅱ	自立に向けた身じたく、移動の介助について学習する。	1 前	30	2	○		
○		生活支援技術論Ⅱ演習	自立に向けた身じたく、移動の介助について事例を通して学習する。	1 前	30	1		○	
○		生活支援技術論Ⅲ	自立に向けた食事、家事介護の技術を学習する。	1 後	30	2	○		
○		生活支援技術論Ⅲ演習	自立に向けた食事、家事介護における実際について演習を通して学習する。	1 後	30	1		○	
○		生活支援技術論Ⅳ	自立に向けた排泄、入浴・清潔保持介護について学習する。	1 後	30	2	○		
○		生活支援技術論Ⅳ演習	自立に向けた排泄、入浴・清潔保持介護について事例と実際を通して学習する。	1 後	30	1		○	
○		生活支援技術論Ⅴ	自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護についてその意義と目的、介護の実際について学習する。	2 前	30	2	○		
○		生活支援技術論Ⅴ演習	自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護について体験や演習を通して学習する。	2 前	30	1		○	
○		介護過程論Ⅰ	介護過程の意義・目的、展開のプロセス及び実践的展開とさらにアセスメントの方法と実際について学習する。	1 前	30	2	○		
○		介護過程論Ⅱ	介護計画の立案、実施、評価、個別援助計画について学習する。	1 後	30	2	○		
○		介護過程論Ⅲ	介護過程の実践的展開、アセスメントの実際、介護過程展開の実際について、学生自身で考えた事例を通して学習する。	1 後	30	2	○		
○		介護過程論Ⅳ	介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割について学習する。	2 前	30	2	○		

○		介護過程論V	総合実習Ⅱでの介護過程展開を体験し、そこでの自らの学びをまとめ、他者に伝える。	2 後	30	2	○		
○		介護総合演習Ⅰ	介護実習において明確化するための課題や、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。	1 通	60	2	○		
○		介護総合演習Ⅱ	介護実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。	2 通	60	2	○		
○		基礎実習Ⅰ	介護福祉士の役割を見学・体験を通して包括的に学習する。	1 前	45	1			○
○		基礎実習Ⅱ	講義・演習・学内実周で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的関わりを深め、利用者のニーズに関する理解力、判断力を養う。	1 後	90	2			○
○		総合実習Ⅰ	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	2 前	90	2			○
○		総合実習Ⅱ	個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学習する。	2 後	225	5			○
○		発達と老化の理解Ⅰ	①高齢者福祉制度②老年期の生理的・身体的・心理・精神的特徴③老年期に多い疾患とリスク④老年期の障害について学習する。	2 前	30	2	○		
○		発達と老化の理解Ⅱ	心身の成長と発達のパターン、生理的発達、心理的発達を学ぶ。さらに人間の発達段階や老化に伴う成熟、精神的、心理的過程について学習する。	2 前	30	2	○		
○		認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得し、その特性を理解し認知症における介護について学習する。	1 後	30	2	○		
○		認知症の理解Ⅱ	認知症のある人の体験や意思疎通が困難な特性を理解し、事例を通して周囲の環境にも配慮したチームアプローチの視点を学習する。	2 前	30	2	○		
○		障害の理解Ⅰ	障害の基礎的知識、医学的側面の基礎知識を理解し、本人のみならず家族を含めた連携と支援の仕方について学習する。	1 後	30	2	○		
○		障害の理解Ⅱ	障害の基礎的知識、医学的側面の基礎知識について学習する。	2 前	30	2	○		
○		こころとからだのしくみⅠ	脳や心臓などの基本的解剖や生理、骨・関節・筋肉などからだの動きのメカニズムを理解する。	1 前	30	2	○		

○		こころとからだのしくみⅡ	1. 人の基本的欲求、社会欲求の理解、その他の欲求との比較から自己実現欲求の本質的違いを学ぶ。また脳とこころ、脳の機能について理解する。 2. 摂食と嚥下にかかわる解剖と仕組み、代償栄養摂食法について学ぶ。また排泄・排尿の行為と仕組みについて、汚れがもたらす影響と清潔保持の必要性、睡眠のしくみとそれに関連したこころとからだのしくみについて学ぶ。	1 後	45	3	○		
○		こころとからだのしくみⅢ	身じたくに関するこころとからだのしくみ、移動の必要性効果、移動するためのこころとからだのしくみについて学ぶ。 終末期から「死」までの身体機能の変化と対応について理解する。	2 後	30	2	○		
○		心理学入門	人間理解の基礎について学習する。心的過程について学習する。	1 前	15	1	○		
○		医療的ケア論Ⅰ	保健医療に関する諸制度概要と医行為に関する法律、喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職との連携について理解する。安全な療養生活のための健康保持・清潔と感染予防について理解する。 喀痰吸引・経管栄養についての概要を知る。	2 前	45	3	○		
○		医療的ケア論Ⅱ	「喀痰吸引」「経管栄養」に関する実施手順の解説と演習。 急変時の対応についての解説と演習。	2 後	30	1	○		
合計				49 科目	1875時間				